

Monthly Report

＜ 目 次 ＞

クリケット女子日本代表チームに本学から3名が選出！！



写真左から仲野部長、角さん、西村さん、高橋学長

・クリケット女子日本代表チームに本学から3名選出！！／クリケット部	1
・玉城大志がザスパクサツ群馬「Jリーグ特別指定選手」に登録／男子サッカー部 ・東北学生体重別選手権大会・東北学生体重別団体優勝大会／柔道部	2
・2023年高地科学と持続可能な開発サマージョーズ交流会議高地スポーツと健康シンポジウム／馬冬梅職員	3
・東北総体優勝 かがしま国体出場／女子ハンドボール部 ・悔しい男子7位、女子9位 巻き返し誓う体操陣／体操競技部	4
・鹿島建設との共同研究「プレテスト」 ・「オープンキャンパス（フェスティバル）」を開催	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 64	6

9月1日(金)から9月8日(金)にかけて、バヌアツのポートビラで開催される「ICC女子T20ワールドカップ東アジア太平洋予選」に、本学から岩崎桜奈さん(体育4年)、角聖華さん(スポーツ栄養3年)、西村あかりさん(職員)がクリケット女子日本代表に選出されました。

3名は8月25日(金)に日本を出発し、バヌアツと2試合・T20I(T20形式の国際試合)を行ってから大会に臨む予定です。引き続き、応援よろしくお願いいたします。

■西村あかりさん(職員)のコメント

5月に中国で行われた「東アジアカップ」に続き、今大会でも仙台大学クリケット部の3名が日本代表として選出されたことをとても嬉しく思います。日々の練習では、ワールドカップ予選に向け練習に励んでいたもので、14名の遠征メンバーに入れたことはとても自信になっています。選ばれたからには、ベストパフォーマンスが発揮できるよう全力で戦っていきます。

また、高橋学長、仲野先生、クリケット部のトレーナーとしてサポートいただいている星谷新助手、応援してくださる教職員の皆様に、良い報告ができるよう頑張りたいと思います。

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

今季4人目Jリーガー！玉城大志がザスパクサツ群馬「2023 JFA・Jリーグ特別指定選手」に登録

先日、ザスパクサツ群馬（J2）への来季加入が発表された男子サッカー部の総主将、玉城大志（体育4年）が、この度、「2023 JFA・Jリーグ特別指定選手」に登録されましたのでお知らせします。

【玉城 大志（タマシロ タイシ）プロフィール】

- ポジション： MF
- 生年月日：2001年4月10日（22歳）
- 身長/体重：173cm/73kg
- 出身： 埼玉県
- チーム歴：
岸町SSS → 浦和レッズジュニア → 浦和レッズJrユース → 浦和レッズユース → 仙台大学



※JFA・Jリーグ特別指定選手とは…

■目的

サッカー選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を超え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とする。

■概要

全日本大学サッカー連盟、全国高等学校体育連盟サッカー部、またはJクラブ以外の大学運営(学校法人)のチームに所属する学生選手、もしくは日本クラブユースサッカー連盟の加盟チームの所属選手を対象に、JFAが認定した選手に限り所属チーム登録のまま、Jリーグ等の試合に出場可能とする。

東北学生体重別選手権大会・東北学生体重別団体優勝大会

—団体戦においては男女で優勝、個人戦は過去最多の男女29名が全日本大会へ進出—

8月26日、27日に標記の大会が開催されました。本大会は、9月30日、10月1日に日本武道館で行われる全日本学生体重別選手権大会（男女7階級個人戦）と10月21日、22日に尼崎ベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）で行われる全日本体重別団体優勝大会（男女7階級団体戦）の予選を兼ねた大会です。

全日本体重別選手権大会への全体出場枠は男子21枠、女子17枠となっておりますが、本学代表選手は各人が攻撃的な柔道を展開し、男子においては優勝者3名を含む12枠を獲得、女子においては17枠全てを本学代表選手が制する形で大会を終えました。

体重別団体においても、個人戦の勢いをそのままに、男子は決勝戦で春に苦汁を飲まれた弘前大学に4-0のスコアで優勝、女子においても東北福祉大に7-0のスコアで勝利しました。全日本大会まで1カ月余りとなりますが、最善の準備をもって大会に臨みたいと思います。

引く続き、柔道部への応援をよろしく願います。 <柔道部>



東北学生体重別選手権大会・東北学生体重別団体男女優勝

2023年高地科学と持続可能な開発サマーシリーズ交流会議高地スポーツと健康シンポジウムに馬冬梅職員参加。

現在、東北大学大学院（博士課程）で研究している本学の馬冬梅事務職員が、中国青海省で開催されたシンポジウムで発表し、その概要について現地のデジタル新聞に紹介されました（青海省体育科学学会 2023-07-11 ）。



2023年7月11日、高地科学と持続可能な開発研究所と青海師範大学主催の「2023年高地科学と持続可能な開発サマーシリーズ交流会議高地スポーツと健康シンポジウム」は、青海師範大学体育学院、青海省体育科学協会および青海省体育科学研究所と共同で、青海師範大学城北キャンパスで開催された。青海師範大学副学長の董占明氏が開会式に出席し、スピーチを行った。

また、青海省科学技術協会副会長の張曉蕾氏、西安体育大学副学長の劉新民教授、青海省文化観光局の二級検査官馬金剛博士も出席した。

また、北京体育大学、陝西師範大学、西北師範大学、日本・仙台大学、青海高原医学研究所、青海体育科学協会、青海軽工業研究所、青海師範大学体育学院、青海省体育科学研究所などの研究者、教師、学生を含む220人以上が出席した。

馬冬梅職員は、高地環境と平地環境におけるフロー体験に関する研究を発表し、「高地にさらされると、感情状態の有害な変化や精神的パフォーマンスの低下が起これと考えられる。高地での最初の感情は多幸感だが、時間が経つにつれ、口論になり、イライラしたり、不安になったり、無関心になることがあり、平地にいる人に比べて高地にいる人の方が不安、怒り、疲労のレベルが高くなり、前向きな気分と活力が低下する。フロー体験はポジティブ心理学にとっても重要であるため、平地環境より高地環境にいる方がフロー状態に入りにくくなる可能性が高い」と述べた。

青海スポーツ科学研究所の馬福海教授は、高地トレーニングの現状と展望について発表し、「プラトー環境の低酸素状態と運動時の低酸素状態の二重の刺激により、身体は複雑かつ深遠に変化すると考えられる。したがって、高原のさまざまな標高で慢性疾患患者の運動と健康増進の研究を強化し、国家フィットネス公共サービスシステムと健康社会の構築のための運動療法と健康管理モデルを構築することは現実的に重要だ」と述べた。



※この記事は、中国SOHU体育新聞に掲載されたものを日本語訳にしたものです。

東北総体優勝 かがしま国体出場／女子ハンドボール部

8月17日から20日までの期間、岩手県花巻市において、第50回東北総合体育大会ハンドボール競技（ミニ国体）が行われました。本学女子ハンドボール部からは、東北6県すべての県に選手8名を派遣し、宮城県成年女子チームには、監督として高橋和希（新助手）、コーチとして佐藤 蓮（臨時職員）を派遣しました。

結果は、宮城県が優勝、岩手県が準優勝となり、10月に開催される特別国民体育大会 かがしま国体に、スタッフ2名、選手4名の参加が決まりました。

全国の強豪に立ち向かうべく、トレーニングに励みたいと思います。＜女子ハンドボール部＞

●宮城県成年女子チーム

監 督 高橋 和希（新助手）

コ ー チ 佐藤 蓮（臨時職員）

選 手

体 育 4年 堀内 来未

健康福祉 1年 照内 夢来

●岩手県成年女子チーム

選 手

体 育 3年 杉田 滯

子ども運動教育 3年 高橋 珠有子



かがしま国体出場に出場する選手とスタッフ

悔しい男子7位、女子9位 巻き返し誓う体操陣／全日本インカレ

出直そう！ 部員から口々にもれましたー。

体操競技の第77回全日本学生選手権大会が8月18日（金）から5日間、長野市のホワイトリングで行われ、本学は1部団体総合（6人編成）で男子7位、女子9位と成績が共にいまひとつ。いずれも前回（男子7位、女子6位）を上回れず、悔しさいっぱいです。伸びなかった要因はどこにあるのか。今後に向けてさらに練習を積んでいきます。

男子は出だしのあん馬で落下者が相次いだのが響きました。このつまずきが尾を引き、鉄棒でも4人が落下。いつもの練習からするととても信じられない光景でした。総合得点394.759。課題が数多く残りました。

一方、女子も各種目でピリッとした演技が見られず、得点を高く積み上げられませんでした。総合得点235.125に終わり、順位を一気に二つ挙げた前回大会の勢いをもち込めず残念です。

試合後、どの選手も大会の重圧から解放された安堵と演技ミスの反省がない交ぜになった複雑な面持ち。スタンドから声援を送った部員らに健闘をねぎらわれながら雪辱を誓いました。

個人総合と種目別の上位成績は以下の通り。丸数字は順位、数字のみは得点。

【男子】

＜個人総合＞⑤佐々木郁哉（体育3年）83.065

＜床運動＞ ②佐々木14.466

＜あん馬＞ ③佐々木14.400

＜跳馬＞ ③小野涼城（体育1年）⑤岡部蓮（体育2年）14.733③佐々木14.433

＜平行棒＞ ④佐々木14.500



個人出場の男子・女子メンバー

＜体操競技部＞

鹿島建設との共同研究 調査前「プレテスト」を実施しました。

8月25日（金）、川平キャンパスKMCHにて、鹿島建設株式会社の社員を対象とした調査研究の事前テスト（プレテスト）を行いました。これは、仙台大学と鹿島建設とが共同で研究を行うものであり、今年度は運動習慣と体組成（Inbody）・骨密度の関連について、建設工事に従事する技能者100名以上を対象に調査する予定です。

参加した受検者からは、脂肪量や筋肉量、筋肉のバランスなど客観的指標のほか、自分の運動習慣や運動不足などの現状などがわかり、大変参考になった等の意見が寄せられました。

本調査は、来月、鹿島建設株式会社が施工する宮城県内2カ所の建設作業現場で、実施される予定です。



鹿島建設との共同研究 調査前「プレテスト」の様子

「オープンキャンパス（フェスティバル）」を開催いたしました！！

この度、「オープンキャンパス（フェスティバル）」を開催いたしました。同規模のオープンキャンパスは4年振りの開催となりました。当日は30度を超える猛暑の中、全国各地からたくさん的高校生や保護者の皆様にご来場していただきました。

プログラムとしては、学科体験イベント、キャンパスツアー、入試説明会、各種個別相談会などを実施しました。学科体験イベントでは、担当教員から学びの魅力について説明があり、高校生は真剣な眼差しで聞き入っていました。キャンパスツアーでは、大学施設を紹介し、多くの参加者が大きな関心を寄せておりました。参加された方々は、皆さん満足した様子でした。

■当日の様子



「高校スポーツの安全を守る」 Vol.64

「仙台大学川平アスレティックトレーニングルーム、高校夏季休暇中の活動」

・記録的な猛暑の中で…

仙台大学付属明成高等学校では7月22日から夏季休業がスタートし、部活動が夕方ではなく午前中、午後の日差しが強い時間帯に活動するようになりました。今年の7月は気象庁の発表で世界の気温の偏差が統計開始以来過去最も高い気象となりました。

明仙フィールドの気温も連日30度以上を超えWBGTも29度以上と熱中症に嚴重警戒をしなければならない気温となっています。そのような環境の中、川平ATルームでは熱中症対策として水分補給の呼びかけや定期的な巡回、部活動顧問の先生と協力し、生徒の体調の確認を行いました。また、プールを作成しておくことで緊急時のアイシングも常に可能な状態にしていました。

川平ATルームでは引き続き熱中症対策を始めとした高校スポーツの安全に努めて参ります。（担当：山田）



緊急時に使用するプール

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画